

令和5年度 農業農村工学会 資源循環研究部会 企画セッション
「農村のバイオマス利活用の発展と展開を考える」 開催報告

資源循環研究部会(部会長 凌祥之九州大学大学院農学研究院教授)では、農村地域でのバイオマス利活用システムの構築には幅広い連携が必要なことから、本年度も全国大会の企画セッションの場を利用して、全国大会開催地(愛媛県松山市)地元の関係者との情報交換を行った。企画セッションは、8月31日に「農村のバイオマス利活用の発展と展開を考える」をテーマに開催した。講演タイトル(所属、講演者)及び講演内容は下記のとおりであった。

1. 松山市の消化ガス発電及び下水汚泥固形燃料化について(松山市公営企業局下水浄化センター, 三木徹也・宮内忠明)

松山市では市内4ヶ所の浄化センターにおいて1日に約60トンの下水汚泥が発生している。汚泥処理は焼却や堆肥化などの複数の方式で再利用されてきた。しかし、2025年10月から汚泥は固形燃料化し、四国電力西条発電所へ石炭代替燃料として供給することに一元化する方針であることが報告された。

2. 農村の資源利用に関する意識と課題(愛媛大学大学院農学研究科准教授, 間々田理彦)

愛媛県西予市で実施された合併前の旧自治体間の木質バイオマスや木質ペレットの認知度及びバイオマス利用政策による社会貢献に関する住民の意識調査結果が報告された。自治体がバイオマスの利用を推進するためには住民の理解が不可欠であり、住民への積極的な情報公開と住民の関与が求められることが指摘された。